

環境水理部会 議事次第

日時：平成 30 年 11 月 26 日（木）12:15 ～

場所：北海道大学 クラーク会館 集会室 5

1. 報告事項

- ① 水工学委員会（11/25）報告（矢島）
- ② H30 年度研究集会（7/5～7/6）報告（大槻氏） 資料 1
- ③ 水シンポジウム（8/23～8/24）報告（矢島） 資料 2
- ④ WG 活動報告（閉鎖性水域 WG，矢島） 資料 3
- ⑤ WG 活動報告（温暖化適応 WG，矢野先生） 資料 3
- ⑥ WG 活動報告（教科書英文化 WG，矢野先生）
- ⑦ WG 活動報告（総合土砂管理 WG，竹林先生）

2. 審議事項

- ① 次期副部長（矢野先生）
- ② H31 年度研究集会（青森）について（梅田先生） 資料 4

3. その他

以上

環境水理部会重要カレンダー

2018年度環境水理部会研究集会 開催報告

環境水理部会

担当：吉川（北見工大）
大槻（土研）

日程：2018年7月5日-6日（木金）

内容：①見学会（網走川・常呂川、39名）、②発表会（北見工大、46名）
決算報告：

研究発表会	一般	学生	合計
参加人数	41	5	46

収入	単価	数量	小計
参加費（一般）	1,000	41	41,000
参加費（学生）	0	5	0
		合計①	41,000

支出	単価	数量	小計
会場費	0	1	0
飲料費（珈琲など）	2,036	1	2,036
学生アルバイト	8,000	2	16,000
土木学会管理費	12,300	1	12,300
雑費	1,300	1	1,300
CPDプログラム認定料	0	1	0
		合計②	31,636

収支 ①-② 9,364

現地見学会	一般	学生	合計
参加人数	36	3	39

収入	単価	数量	小計
参加費（一般）	2,000	36	72,000
参加費（学生）	2,000	3	6,000
		合計①	78,000

支出	単価	数量	小計
バス貸し切り	58,900	1	58,900
土木学会管理費	23,400	1	23,400
		合計②	82,300

収支 ①-② ▲ 4,300

発表会+見学会 5,064

残額は
学会へ

交流会	一般	学生	合計
参加人数	35	4	39

収入	単価	数量	小計
参加費（一般）	5,000	33	165,000
参加費（学生）	2,000	4	8,000
		合計①	173,000

支出	単価	数量	小計
コース料金	4,000	39	156,000
学生アルバイト代	8,000	1	8,000
		合計②	164,000

収支 ①-② 9,000

交流会 9,000

大槻預かり。
次回へ繰越

開催の様子



このシンポジウムは、市民、学会、行政、民間が一同に会して風水害や自然環境などの水に関する諸問題を議論し、相互理解と情報共有を図ることを目的に開催します。

富士の麓で水を語らう～水のチカラ。多様な恵みや荒ぶる姿と暮らしの関わりを考える～

ふじのくに静岡県は、日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、東西 155 km、南北 118 km で、人口 368 万人を抱えています。県土の北側には、世界文化遺産の富士山や南アルプスなどの 3,000m 級の山々が連なり、南側には最深 3,000m 以上もある駿河トラフが存在する、急峻で変化に富んだ地形を呈しています。

水は、様々な恩恵と多様な魅力を「ふじのくに」にもたらしています。山地から河川によって運ばれた土砂によって三保半島などの海岸線が形成され、本県を代表する美しい景観を形成しています。大地が育んだ貴重な資産の保全と活用に取り組む伊豆半島ジオパークも注目されています。

また、河川を流れる清らかな流水や霊峰富士が育む豊富な地下水に、古くから地域の諸活動が支えられ、畏敬の念とともに人々の営みと深い関わりを有してきました。さらには、豊かな自然の恵みが実感できる水辺空間は、住む人、訪れる人にやすらぎを与え、そこをフィールドとした環境保全などの市民活動が各地で展開され、人づくり、地域づくりにつながっています。

一方で、伊豆半島の天城山系や富士山麓の年平均降水量は、3,000mm を越える多雨地域であり、降雨は梅雨期、台風期に集中する傾向にあります。平成 30 年は狩野川流域で、死者・行方不明者 853 名、被災家屋 6,775 戸という未曾有の被害をもたらした昭和 33 年 9 月の狩野川台風の来襲から 60 年の節目を迎えます。近年、全国各地で局地的豪雨による災害や浸水被害が頻発しています。先人の被災体験やその後の復旧や対策をふりかえり、これを教訓として、ひとりひとりが、自然界の水がもつ強大な威力にしっかりと目を向けていかなければなりません。

静岡県の水に関わる話題のうち、「多様な水の魅力」と「命を脅かす水の威力」について、ふじのくにの水の持つチカラと人々の暮らしとのつながりを改めて議論して、これからの水とのつき合い方の提案を、静岡・沼津から全国へ発信します。

8月23日 木

シンポジウム

入場
無料

【午前の部】 1F ホール A (メイン会場) (定員 600 人)

9:00 開場

9:30 開会

10:00 基調講演① (55分)

講師：国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント
国際センター長 小池俊雄氏

10:55 基調講演② (55分)

講師：伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員 鈴木雄介氏

■パネル展示 (ブラサヴェルデ ホワイエ)
県内市町村や共催団体等の活動の紹介
県内外の主要災害と防災の事例等の紹介
水辺の活用等に関する活動の紹介



■基調講演①

「水防災意識社会の
更なる進化に向けて」

小池俊雄氏



■基調講演②

「伊豆半島ジオパークで
考える、水のチカラ・
人の知恵」

鈴木雄介氏

【午後の部】

12:50 分科会

15:00 (休憩 15分)

15:15 市民団体発表

「わき水田宿川委員会」

15:35 市民団体発表

「三島北高校」

15:55 全体会議 (1F ホール A)

16:55 次回開催県挨拶

17:00 閉会

◆第1分科会 (1F ホール A)

◇ テーマ 「富士山が育む豊かな水と人との結びつき」
◇ コーディネーター 矢島啓 土木学会水工学委員会環境水理部会 島根大学教授
◇ パネリスト 岩田智也 山梨大学 准教授
知花武佳 東京大学 准教授
山田辰美 常葉大学 名誉教授
佐藤恭彦 三島市産業文化部 農政課課長補佐
太田博文 静岡県 河川砂防局長

◆第2分科会 (3F ホール B)

◇ テーマ 「狩野川台風から 60 年、これからの水害への心得と備え」
◇ コーディネーター 大石哲 土木学会水工学委員会水文部会長 神戸大学教授
◇ パネリスト 岩田孝仁 静岡大学 教授
小野登志子 伊豆の国市 市長
遠藤雅巳 沼津市消防団 団長
土屋龍太郎 土屋建設㈱ 代表取締役 社長
中村浩二 静岡地方気象台 台長
藤井和久 国土交通省沼津河川国道事務所 所長

8月24日 金

現地見学会

定員40名
参加希望者のみ

県東部地区の自然環境や防災に関わる水辺の視察
(源兵衛川、柿田川公園、伊豆半島ジオパーク・キューブ、狩野川放水路など)

9:00 (出発) ~ 17:30 (解散)

集合 / 8時45分 ① JR沼津駅北口 (ロータリー)

9時20分 ② 三島市立公園楽寿園駅前入園口

(JR三島駅南口徒歩 1分)

※参加費：1,600円 (昼食代、保険代込)

参加申込方法 締切8月3日(金)必着

◆ シンポジウム及び現地見学会 ともに、申し込みが必要です。

FAX
から

下記の申込書に必要事項を記入して、ご送付ください。

Email
から

下記項目をご入力、お申し付けください。
(申込書は下記ホームページ内からダウンロードできます。)

アドレス：suzuki-j@shizuoka-showa.co.jp

①参加人数、住所、氏名(ふりがな)

④参加を希望される企画 (複数選択可)

②年齢、性別

・シンポジウム

※参加される方全員分のご記入をお願いします。

・現地見学会 (先着40名)

③電話番号、メールアドレス

⑤併当申し込み

■第23回水シンポジウム 2018in ふじのくに・沼津 HPアドレス

<https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-320/index.html>
(静岡県河川砂防局)

お問合せ：「第 23 回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」実行委員会
TEL：054-248-5678 (昭和設計㈱内)

◆ 現地見学会につきましては、万が一に供え、レクリエーション保険等に加入していただけます。◆ また、参加費は当日現地受付にてお支払いください。
◆ ご記入いただいた個人情報は、お申し込みのイベントに関連した連絡のみ使用いたします。



第1分科会まとめ (提言)



◆富士山が育む“水の魅力”を後世に継承するのは我々の使命

- 市民は、積極的に川と関わり、次世代にその魅力を引き継ごう！
- 研究者は、川の魅力を発掘し、それを広く伝えよう！
- 行政は、市民（研究者）との協働のもと、百年先を見越した整備を行おう！
- 人づくり→川づくり→コミュニティづくり

第2分科会まとめ (提言)



◆狩野川台風の記憶を継承し、災害も含めた「川とのおつきあい」をする地域

- 想定外の気象は必ず発生する。川と地域をよく知って、ただしく自然をおそれる術を身につけよう
- Think before：あらかじめ川の振る舞いを知り、正確な情報を収集して、早めの行動に結びつけよう
- 細かな異常の発見につなげるために、普段から川と関わって、美しい流域を維持しよう

閉鎖性水域WG

ワーキンググループ名: 閉鎖性水域WG

主査: 島根大学 矢島

ミッション: 国内全体の閉鎖性水域に関する研究分野の活性化とレベルアップを図るとともに、(国際的にも通用する湖沼生態系モデルの開発を行う)。

メンバー: 現在関連研究を行っている方だけでなく、これから閉鎖性水域の研究を行いたい人にも入っていただく(現時点での参加者は、部会メンバー7名+部会外メンバー11名の合計18名)。

■**ワークショップ**「閉鎖性水域の統合的な環境解析ツールの構築」開催
(首都大学東京・ミニ研究環と合同)

日時: 2018年4月14日(土) 14~18時

場所: 首都大学東京

内容: Jorg Imberger博士による基調講演と国内関連分野の研究者10名の発表
Richard Courtオーストラリア大使との日豪研究連携の意見交換

参加者: 35名

2018/11

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG

[適応WG]の活動報告: WG主査 矢野真一郎(九州大学)

【メンバー】宮本(芝工大)・矢島(鳥取大)・田代(名大)・赤松(山口大)・梅田(東北大)・工藤(いであ)・櫻井(土研)・鈴木(八千代)・鶴田(土研)・中山(神戸大)・矢野(九大)・湯浅(パシコン)・井芹(西技)・石塚(香川大)・新谷(首都大); [部会外メンバー]白水(山口大)・上原(パシコン)・對馬(土研)・入江(阪大)・津田(ICHARM)・中西(土研)(計21名)

【今年度の活動実績】

- ✓ 第4回WGについて本日の部会終了後に実施。本WGの継続について審議する。
- ✓ 環境省推進費に応募した。ただし、WGの枠組みのみの構成にはなっていない。

【今後の予定】

- ・継続が了承された場合、WG主査を交代して活動の第2フェーズへ移行したい。
- ・次のフェーズとして、d4PDFなどの気候変動に関するプロダクトの利用促進とその利用技術の共有を進めたい。
- ・第2フェーズではメンバーの再募集も行う予定。

平成31年度 環境水理部会研究集会 開催案

担当 梅田信（東北大学）

1. 日程案

a) 6月20日(木)–21日(金), b) 6月28日(木)–29日(金), c) 6月14日(金)–15日(土)

※海岸工学論文集締切：5月下旬，水工学論文集締切：5月31日（見込），

水工学論文集編集委員会：6月7日ごろ（未定），河川シンポジウム：6月12-13日（決定）などを考慮。

2. 開催地

青森県岩木川流域（弘前市，五所川原市など）

3. 研究会会場&宿泊地案

a) 弘前市内 会議室（弘前文化センター，ヒロロスクエア，弘前大学・・・）

b) 大鱈温泉 旅館内

4. 行程，時間割案

1日目：現地視察+ナイトセッション，温泉宿泊

2日目：研究会（A案 弘前市内開催，B案 温泉宿内開催）

	1日目	2日目-A	2日目-B
8		8:00? 宿発	
		弘前の会場へ移動	8:30
9		9:00?	セッション1
		セッション1	
10	10:20 新青森駅発 (バス)		セッション2
11	11:20 青森空港発 (バス)	セッション2	12:00
12		12:00 昼休み	昼休み
	12:50 十三湖着		
13	昼食	13:00	セッション3
		セッション3	
14	14:00 見学（十三湖周辺）		セッション4
15	見学（岩木川下流）	セッション4	15:30 研究会終了
16	見学（岩木川中流）	16:00 研究会終了	16:00 大鱈温泉駅
		16:40 弘前駅前	16:40 弘前駅前
17	17:00 大鱈温泉または弘前着	空港バス	空港バス
		16:52 弘前	
18	18:00 食事	新青森行き	
19	19:00 ナイトセッション		
20			

■補足情報

1) 日程としては、8月上旬（お祭り時期）を除けば、気象条件などを含め現地で見込まれる問題はない。

2) 研究会の開催地としては、会議場、宿泊宿などの条件を考慮すると、弘前市内、青森市内が無難と考えられる。これに加え温泉宿も候補に考えうる。

3) 行程については、（現時点の時刻表より）

a) 青森への往路，到着時刻見込み

・新幹線では、6:32東京発-9:49新青森着の始発があり（この次は11時着）

・羽田発 9:15着，11:10着。伊丹発 9:00着，10:30着。千歳発 10:50着。小牧発 8:55着。

・青森空港9:30集合で、新青森経由、現場行きの行程案もあり（その場合、北海道やその他遠方の参加者には、前日からの動きを工夫頂く必要がある）午後から晩にかけての行程に余裕が出る。

b)自動車での移動時間

・新青森駅から青森空港は30分強。

・青森空港から十三湖までは、自動車で約1.5時間。

・十三湖から弘前まで約1.5時間。

・弘前から大鰐温泉は約30分。

c) 青森からの帰路，出発時刻見込み

・新幹線（新青森-東京）18時半頃までならば本数は比較的ある。所要時間は3時間から3時間半。

・羽田行き20:35青森発。伊丹行き18:20青森発。千歳行き20:25青森発。小牧行き19:05青森発。

4) 見学箇所候補

・昼食場所：民宿和歌山（十三湖水戸口脇に所在。シジミラーメンが有名）

・十三湖：水戸口突堤（選奨土木遺産，2016年度），湖岸展望台

・岩木川下流部のヨシ原（岩木川の環境的な特徴の一つ）

・岩木川中流部（弘前付近の三川合流部付近）

・青森河川国道事務所に、詳細の見学場所の（バスでの移動を考慮した）選定および案内を依頼予定。

5) 研究会

・開催地候補は、弘前市内または、宿泊地候補の大鰐温泉。

・弘前と大鰐は、比較的近く、鉄道も利用可能（ただし本数は多くない。宿の朝食の時間を考慮すると、朝の大鰐温泉→弘前市内の移動は、時間の選定が難しいかも）

・2日目A案は、弘前市内の会議室を借りた場合。B案は、大鰐町のホテル会議室を借用した場合。

施設状況，利用料等の詳細は、今後確認が必要。100人程度の規模まではいずれも対応可能の見込み。

・特別講演には、岩木川研究会のメンバであった、弘前大の東先生（生態学），小岩先生（地質学），八戸工大の佐々木先生（水理学），河川環境保全モニターの竹内健悟先生（ヨシ原）の候補からと考えている。

6) 会議室関係

・弘前市民センター（中会議室，定員100名）

・弘前市民文化交流会館ヒロロ（ホール，150名）

・大鰐町鰐come（研修室，40人くらい？。多目的ホール，400名？，分割利用可能？）

・大鰐温泉 不二やホテルなど。

など

岩木川：見学地の候補



1. 十三湖

- ✓ 水戸口（河口）。河口閉塞対策の突堤（選奨土木遺産）。ヤマトシジミの一大産地。

2. 岩木川下流

- ✓ ヨシ原。オオセッカ営巣地。2018年にヨシ原管理の火入れの試みスタート。

3. 岩木川中流

- ✓ 三川合流。治水対策とともに、みずべの学習広場なども整備。

4. 津軽ダム

- ✓ 旧目屋ダム直下に新ダムを建設する再開発事業。2016年完成



現在の水戸口 (H27)

